

1 調査名称：内子町総合都市交通体系調査（都市計画道路網の見直し検討調査）

2 調査主体：内子町

3 調査圏域：内子都市計画区域を中心とする行政区域全体

4 調査期間：平成23年度

5 調査概要： 内子町は、「重要伝統的建造物群保存地区」をはじめ、大正時代の歌舞伎劇場を復元した「内子座」、棚田百選に選ばれた「泉谷地区」、など、多くの歴史・文化遺産や自然景観に恵まれている。

これらを活用すべく街歩き型観光の基盤整備と連携・一体化した歩行者、車、公共交通機関等の体系的な市街地整備網の整備により、景観まちづくりに配慮した幹線道路網の構築に資する基礎資料を得ること、並びに、長期未着手の都市計画道路の必要性を検証し、変更・廃止を含めた見直し方針を立案する基礎資料を得ることを目的とし、交通量観測調査（自動車・自転車・歩行者）、駐車場利用状況調査、観光歩行者へのヒアリング調査などを実施した。

## I 調査概要

1 調査名：内子町総合都市交通体系調査（都市計画道路網の見直し検討調査）

## 2 報告書目次

### 1章 業務概要

### 2章 内子町の現況と特性

2-1. 社会状況

2-2. 道路交通状況

### 3章 現況把握調査

3-1. 現況把握調査概要

3-2. 調査実施日の検討

3-3. 調査計画書

3-4. 調査結果

3-4-1. 自動車交通量観測調査

3-4-2. 自転車歩行者通行量調査

3-4-3. 駐車場調査

3-4-4. 観光客ヒアリング調査

3-4-5. レンタサイクル走行経路調査

### 4章 現況の課題抽出と対策案検討

4-1. 道路・交通の視点

4-2. 観光の視点

### 5章 将来交通量配分検討

5-1. 将来交通量配分検討の考え方

5-2. 将来交通量配分検討結果

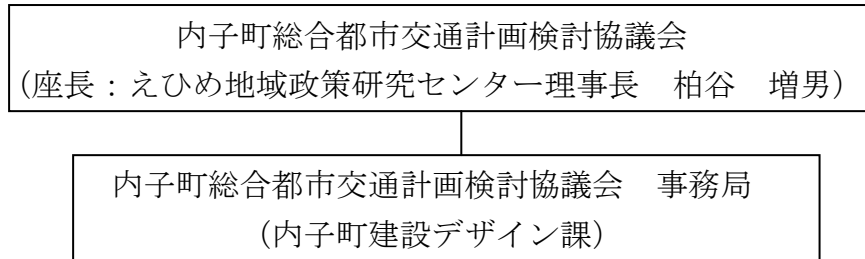
## 巻末資料

巻末資料 1. 庁内委員会資料

巻末資料 2. 第1回内子町総合都市交通計画検討委員会資料

巻末資料 3. 現況把握調査結果集計データ

## 3 調査体制



## 4 委員会名簿等：

	所 属	役職等	氏 名
委員長	えひめ地域政策研究センター	理事長	柏谷 増男
委 員	国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所	事務所長	木村 正己
委 員	愛媛県南予地方局大洲土木事務所	事務所長	長野 政人
委 員	大洲警察署長	署 長	戸田 美智男
委 員	大洲地区広域消防事務組合	消防長	芝田 隆
委 員	内子商工会	会 長	酒口 強
委 員	内子町自治会連絡会 (内子自治センター管内連絡会)	会 長	梶田 忠章
委 員	ハイヤー・タクシー協会 (池田タクシー)	—	池田 央
委 員	内子町	副町長	稲田 繁
委 員	内子町総務課	課 長	西澤 美男
委 員	内子町町並・地域振興課	課 長	小野植 正久

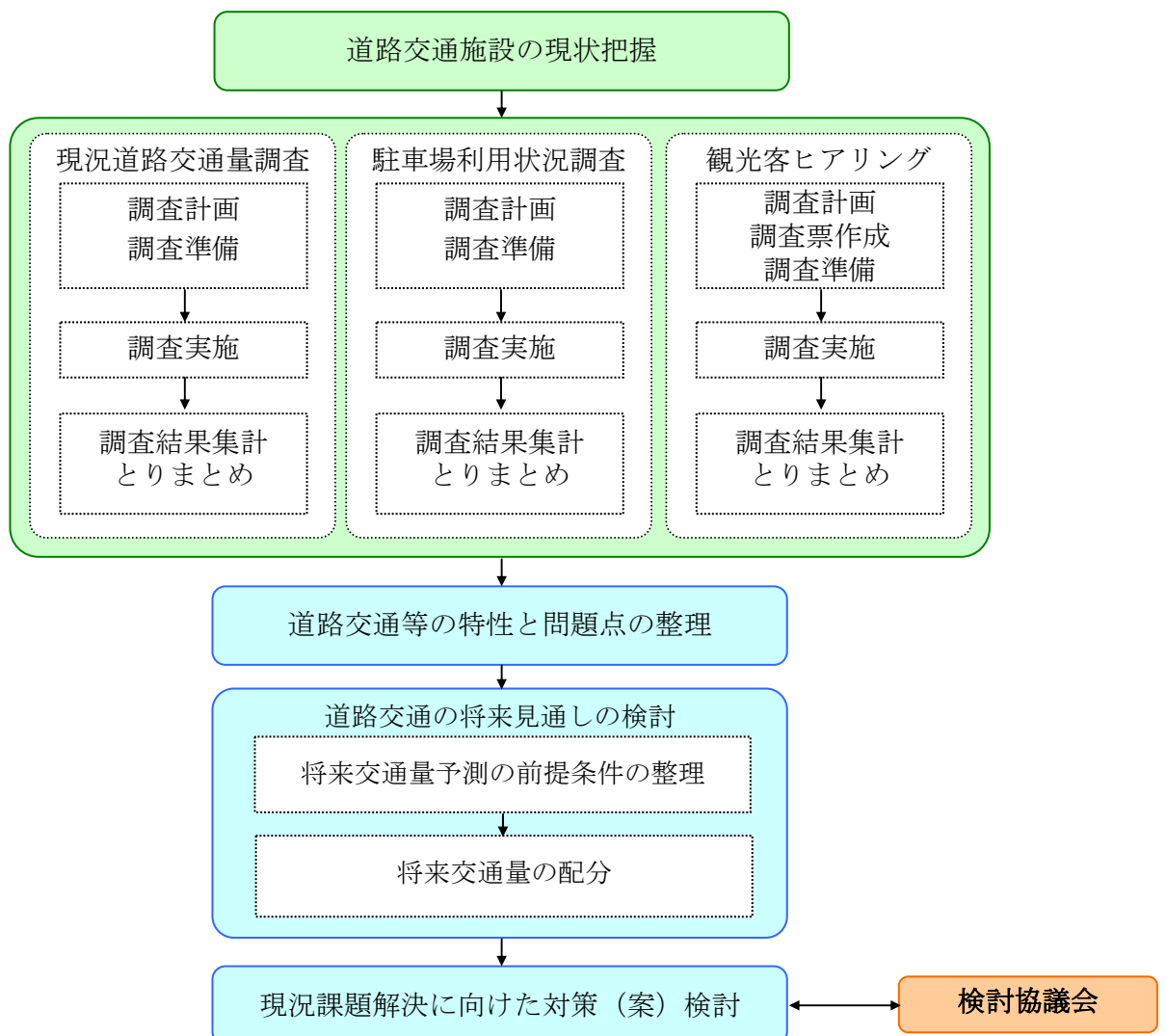
## II 調査成果

### 1 調査目的

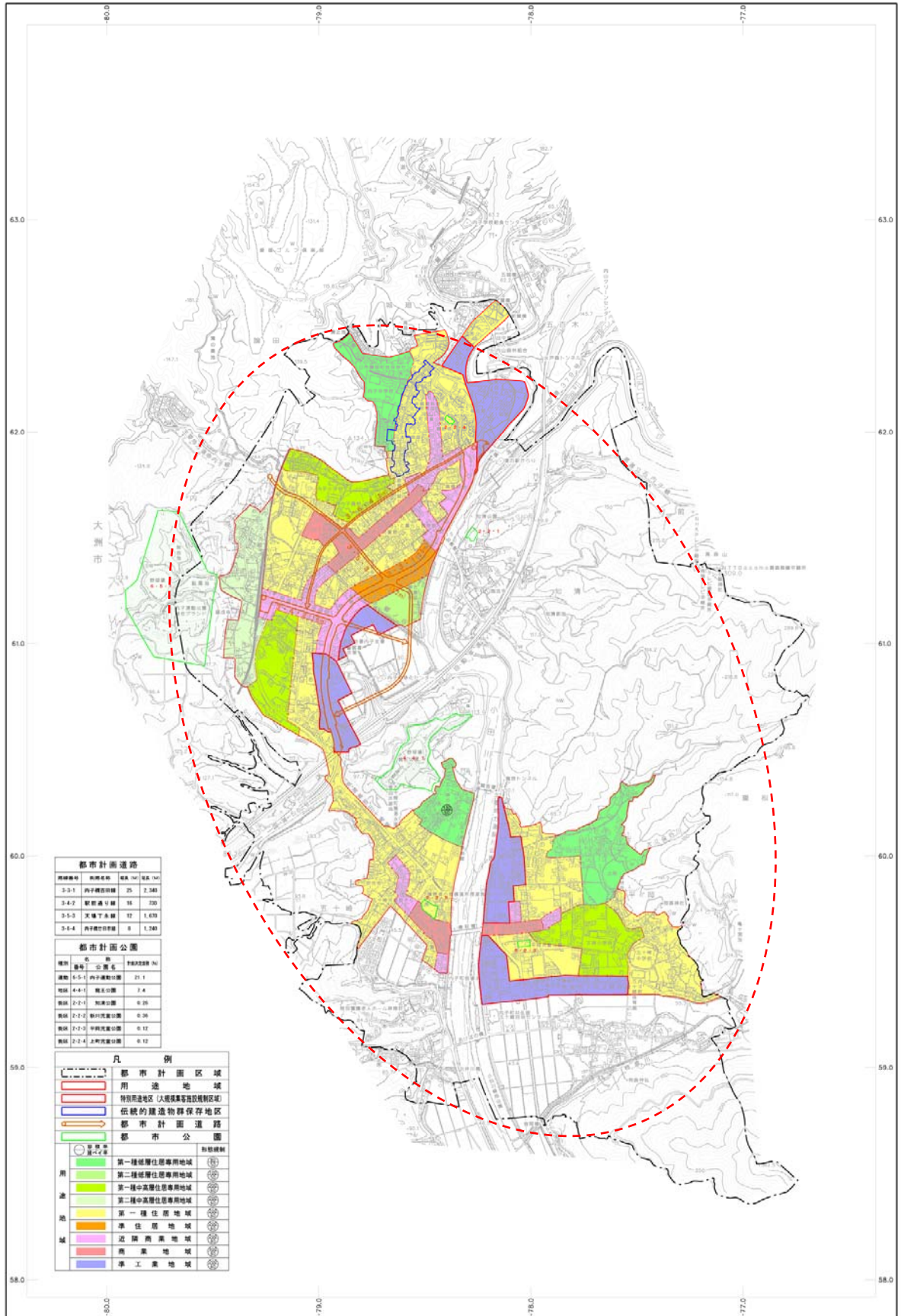
内子町は、「重要伝統的建造物群保存地区」をはじめ、大正時代の歌舞伎劇場を復元した「内子座」、棚田百選に選ばれた「泉谷地区」、など、多くの歴史・文化遺産や自然景観に恵まれている。

これらを活用すべく街歩き型観光の基盤整備と連携・一体化した歩行者、車、公共交通機関等の体系的な市街地整備網の整備により、景観まちづくりに配慮した幹線道路網の構築に資する基礎資料を得ること、並びに、長期未着手の都市計画道路の必要性を検証し、変更・廃止を含めた見直し方針を立案する基礎資料を得ることを目的とする。

### 2 調査フロー



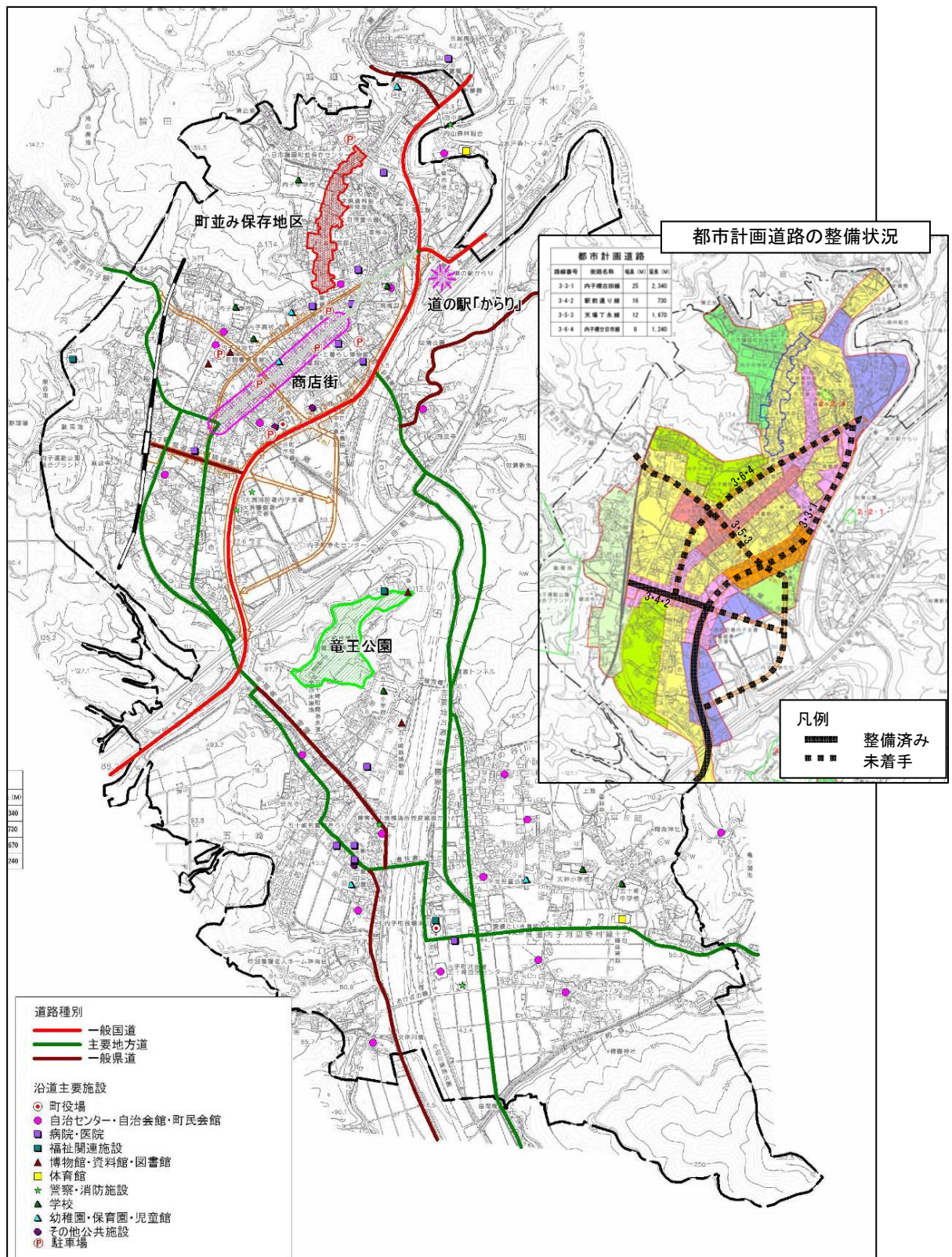
### 3 調査圏域図



## 4 調査成果

### ○道路交通施設の現状把握

内子町中心部とその周辺部（内子都市計画区域内）における道路交通施設、および、その他主要施設の立地についてとりまとめをおこなった。



## ○現況道路交通量観測調査

都市計画道路網の見直しをおこなう上で、検討に必要な箇所交通量観測調査を実施した。また、現況課題の把握のため、歩行観光客の多い地点で自転車・歩行者通行量調査を実施した。



図 現況道路交通量観測調査箇所

調査は平日・休日のそれぞれ12時間（7:00～19:00）で実施し、交通量観測調査方法、車種分類等は道路交通センサスにおける調査方法に準じ実施した。

なお、自動車交通量調査と自転車歩行者通行量調査は平日・休日とも同日に実施することとし、調査実施日は過去の駐車場利用台数データを基に検証をおこなって、なるべく自動車での観光来訪が多くなる日を選定し、以下の日程にて実施した。

- |   |
|---|
| ・ 休日調査日時<br>平成23年10月9日（日） 7:00～19:00（12時間観測）  |
| ・ 平日調査日時<br>平成23年10月12日（水） 7:00～19:00（12時間観測） |

調査の結果、自動車交通は平日・休日とも概ね2,000台/12h程度であったが、観光地ということもあり、休日の歩行者通行量が1,500人/12hと非常に多い結果となった。

なお、調査結果は、内子町中心部における、特に商店街区間の現況交通流動・交通量の把握のために用いるとともに、自動車と歩行者の混在度合いなど、現況の課題把握のための指標として用いた。

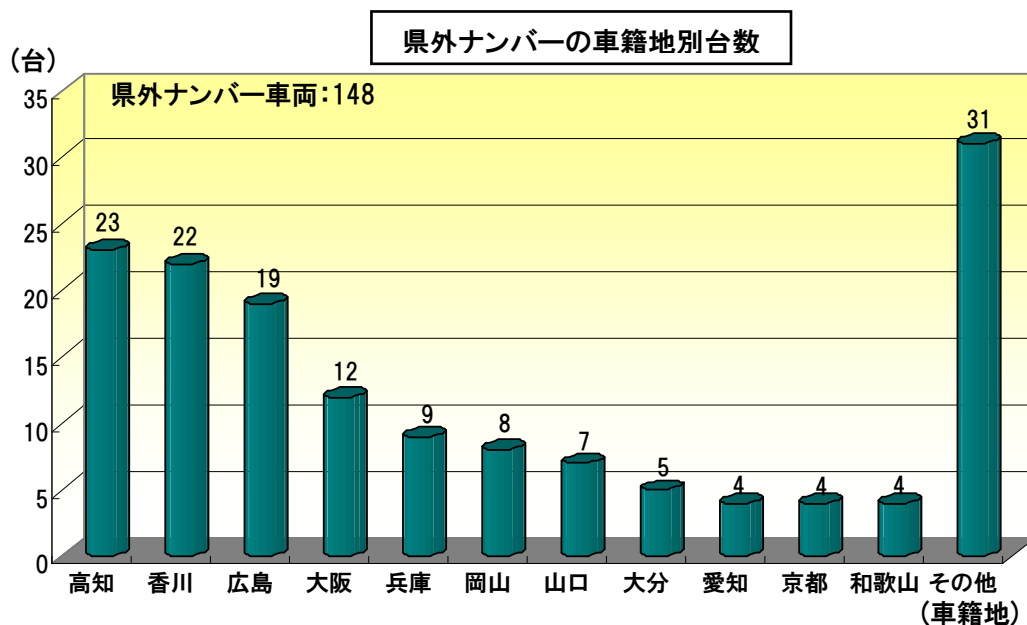
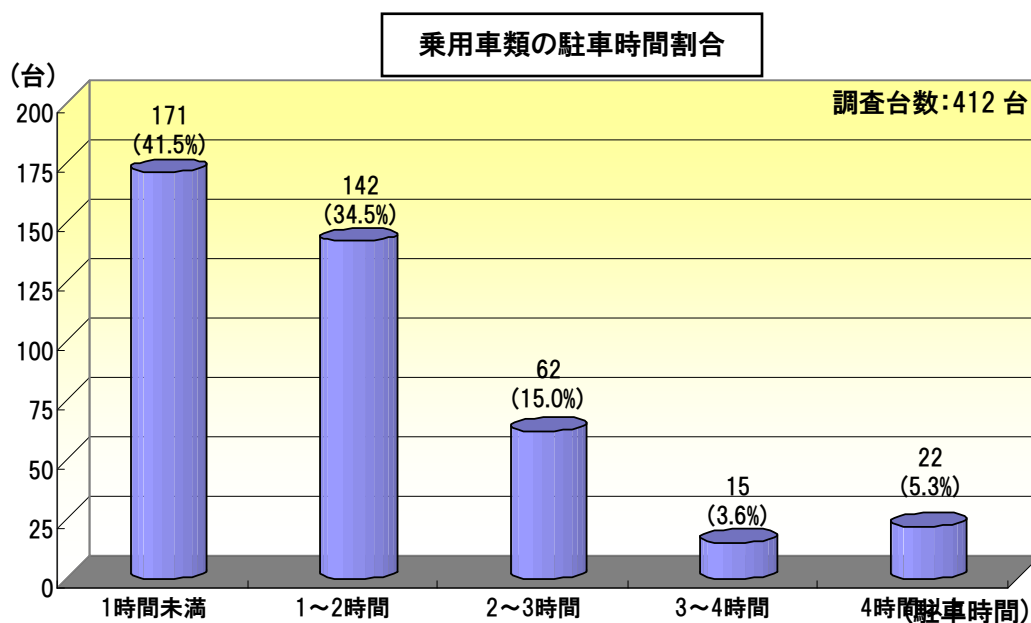
## ○駐車場利用状況調査

内子町中心部の特に観光客の多い、伝建地区・内子座周辺の駐車場について利用状況の調査を実施した。

調査箇所については、平日は主要な駐車場（町並み駐車場）の1箇所とし、休日はその他観光地区周辺の駐車場6箇所を加え、計7箇所にて調査を実施した。

また、調査方法は、入・出庫する車両のナンバー調査により、車種別・地域別の駐車台数、駐車時間などの情報を整理した。（調査日時は交通量観測調査と同一）

調査結果の集計例として、乗用車種の駐車時間割合・県外ナンバー車籍地別台数を以下に示す。



調査により得られた結果については、観光客の滞在時間把握、および、県外からの来訪車の駐車状況把握に用いた。



## ○観光客へのヒアリング調査

内子町へ観光で来訪され、伝建地区・内子座周辺を徒歩で観光中の方を対象に、調査員による直接対面方式のヒアリング調査を実施した。

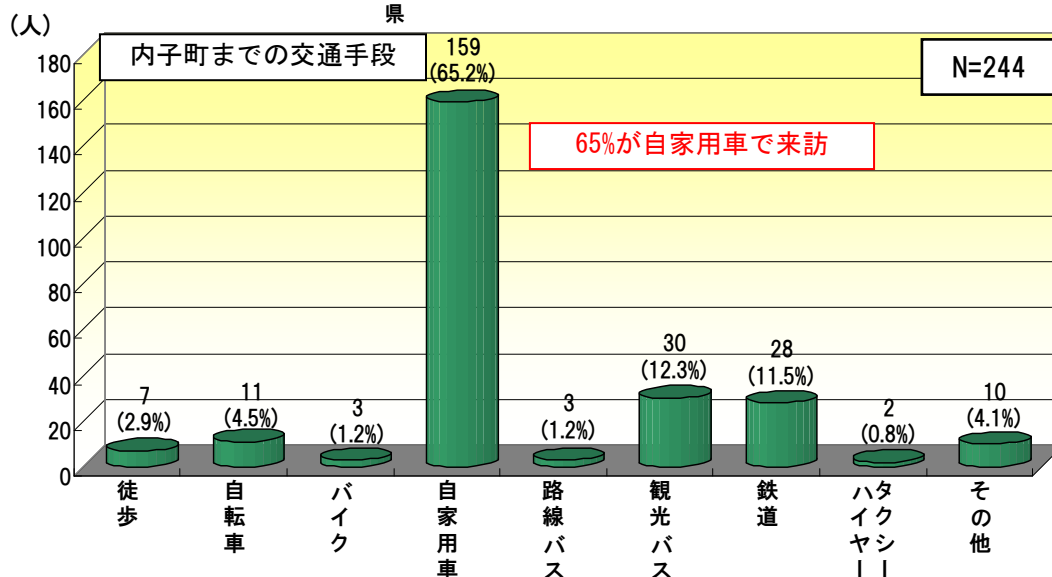
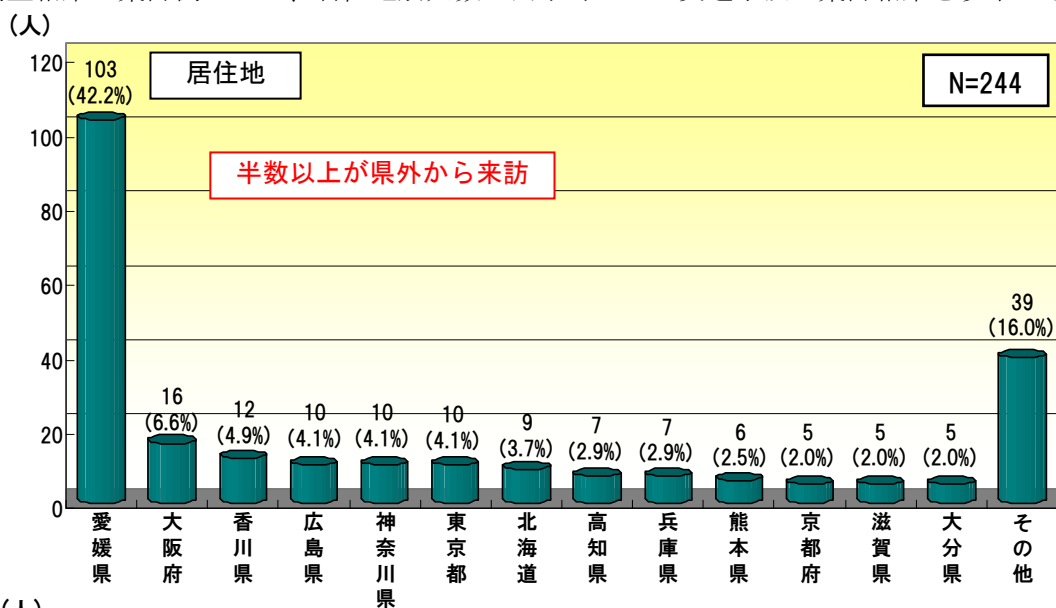
調査日は平日・休日とも他調査と同一で、調査時間については、なるべく観光を終えて帰宅（または他へ移動）する人を対象とするため、午後の5時間（13:00～18:00）とした。

調査項目は以下に示すとおりである。

- 1) 回答者属性（性別・年齢・居住地）
- 2) 内子町への来訪回数・間隔
- 3) 内子町への来訪目的（行きたい・見たい場所）
- 4) 内子町までの移動手段、内子町内での移動手段
- 5) 伝建地区・内子座周辺における観光移動ルート
- 6) 内子町内での滞在時間
- 7) 内子町来訪の感想、および、今後の再訪意向
- 8) 内子町に対する自由意見

調査の結果、平日・休日合わせて、計 244 名のサンプルを得た。

調査結果の集計例として、居住地別人数・内子町までの交通手段の集計結果を以下に示す。





## ○道路交通網整備の課題の整理

現況施設の把握、および、現況把握調査結果を基に、内子町中心部における現況の課題について抽出をおこなった。また、その課題解決のための対応検討項目（案）について検討を実施した。

現況における最も顕著な課題としては、歩行観光ルートにおける歩行者と自動車の混在であると考えられ、その解決のためには該当区間の道路拡幅の検討、および、周辺の未着手都市計画道路の整備による交通分散の効果検討などが必要と考えられる。

### 【課題】 観光ルートにおける歩行者と自動車の混在

町道本町旭線の商店街区間では、観光客を中心とした歩行者の通行が多く見られるが、歩道が整備されておらず、歩行者と自動車が混在する区間となっている。

内子町商店街付近の道路幅員は概ね6mの道路であるが、沿道には商店街が立地しており、拡幅などによる歩行者空間の確保は難しく、また駐車場もあるため、沿道から道路への自動車の出入りも見られる区間である

自動車交通量は概ね2,000台/12hと自動車交通量は多くはないが、これに対し、歩行者通行量が1,500人/12h（休日・現況調査）と非常に多くなっており、事故等の危険性が高いと思われ、観光客ヒアリング調査においても、歩行時における危険性についての意見が挙げられている。



### 【対応検討（案）】 該当区間の拡幅改良および都市計画道路整備による交通分散検討

該当区間の現況沿道状況から拡幅などの道路改良は難しいと考えられるが、その可否について、検討をおこなっておく必要があると考える。

また、また該当区間の周辺には、現在未着手となっている都市計画道路の計画があり、これらを整備した場合の交通転換・分散など、課題となっている区間の歩車混在の緩和に繋がる効果があるかどうかの検討をおこなう必要がある。

